

## ②首都圏外郭放水路の観光資源化（民営化の取り組み）

授賞機関 首都圏外郭放水路利活用協議会

**キーワード** 民営化、河川空間のオープン化、メディアの活用

### 全建賞審査委員会の評価ポイント

日本の防災施設としては初となる民間運営による社会実験見学会。国・市・地元関係団体が協議会を設立し、民間企業を活用した、これまでのスキームには見られないインフラツアーの事例であり、利用者の増大とインフラへの理解促進につながり、先進事例として非常に効果が大きかった点が評価された。

### 1. はじめに

これまで、国土交通省では広く一般に首都圏外郭放水路の施設や事業効果を情報提供し、防災に関する意識啓発を図ること等を見学会を開催してきた。

このような中、「明日の日本を支える観光ビジョン」において、魅力ある公的施設・インフラの大胆な公開・開放が掲げられ、魅力ある公的施設として、ひろく国民、そして世界に観光資源としても開放していくことが求められた。



首都圏外郭放水路 庄和排水機場

### 2. 事業の概要

国土交通省では、見学会の民営化に向けて首都圏外郭放水路利活用懇談会を開催し、有識者による提言を取りまとめた。そして、この提言を実行するために春日部市副市長を会長とする首都圏外郭放水路利活用協議会が発足された。

#### 提言「施設の運営を民間事業者に開放」

河川空間のオープン化（都市・地域再生等利用区域）の制度を活用し、公募により連携して事業を行う民間事業者（以下「連携事業者」という）を選定した。

#### 提言「メディアを活用する戦略」

テレビ・新聞等マスコミ向け特別取材会を開催した。

また、取材やロケーション撮影等の受入も行っている。  
**提言「治水の役割を知ってもらうためのツアーの開設」**  
**「地域一体となった周遊性のあるツアーの検討や市民活用」**  
 社会実験として見学会を実施している。

### 3. 事業の成果

#### ◇見学会（第1弾）

- ①民営化により見学人数を5倍に拡大
- ②地下神殿コンシェルジュによる説明案内
- ③「第一立坑」・「ポンプ室」を初公開
- ④2種類のスマホアプリ導入
- ⑤「防災地下神殿カード」配布
- ⑥バスツアー解禁

見学者が開始から5ヶ月で、前年度同月と比較し3.7倍（約3万5千人）に増加した。

#### ◇見学会（第2弾）

魅力をより「深く」体感できるよう、それぞれ魅力・見学時間・料金の異なる3つの見学コースを設定し、質の高いサービスに重きを置いた。

予約率は、全コースで70%を超え、特に立坑体験コースは、95.41%と好評である。



各見学コースの見どころ

### 4. おわりに

台風第19号では多くのメディアに取り上げられ、注目度が上がり見学会への期待も大きい。

また、連携事業者による地元事業者と連携したツアーなども企画され、観光資源としての集客アップにより、地域振興や防災意識の向上が期待される。